

第17回
栄光学園
OBフォーラム
オンライン

2024年

2月3日(土)

10:00-(ZOOM入室開始 9:45)



オンライン会議サービスZOOMによるWebinar形式のイベントです。インターネットに接続されたPC、スマートフォン、タブレットから視聴できます。参加無料。専用申込サイトによる事前申し込みが必要です。ご家族ご友人をお誘いのうえ、奮ってご参加ください。



申込サイト
<https://x.gd/6LSSc>

米国大学院とシリコンバレーから見えた個人パワーの未来

私はアメリカの大学院で博士号を取得した後、米国上場企業での研究開発職を経て、スタートアップでエンジニア・データサイエンティストとして経験を積みました。それは競争と資本の論理がはげしく渦巻く世界でした。現在はシリコンバレーに身を置きつつも、そういう世界から一步距離を置き、技術をテコに独立してビジネスをしています。海外経験のない高卒の両親のもとで育った24歳が渡米して24年、独りぼっちの日本人が受けたカルチャーショックとそこから得た教訓を元に「これからの生き方」を考えたいと思います。



田中 乃悟 (42期)

米国 ANELEN および Two Sea Lions Inc. 代表

慶應義塾大学総合政策学部卒、政策メディア修士、カーネギーメロン大学 Ph.D. (バイオメディカルエンジニアリング) ジョージタウン大学客員研究員を経てカーネギーメロン大学にて外科手術シミュレーションの分野で博士号を取得。米国シュルンベルジェ社に入社し原油探査のための地底モデル生成アルゴリズムの研究開発を行う。2011年、スタートアップのFivestarsにシニアエンジニア・データサイエンティストとして草創期から参加、同社は2021年に317ミリオンドルで買収される。現在はシリコンバレーにて独立、プロダクト・データに関するコンサルティングや、複数のSaaSを提供している。



「楽しく生きる」は、平等に配れるのか?

すべての人が等しく『楽しさ』を享受できる社会とは、どんな社会なのか? 果たしてそんな社会は実現可能なのか? これが私の研究テーマです。中高時代は野球部。大学以降はラクロス。私の生活の中心には常にスポーツがありました。スポーツの楽しさが高じて、いまでは「スポーツ社会学」を専門とし、ラクロスでは日本代表ヘッドコーチを務め、同時に「多様な社会的困難を抱える人たち」のためにサッカーを通じた場づくりをするNPOの代表もしています。誰かの楽しさが、実は他の誰かの楽しさを犠牲にしていたとしたら? 通常は富の配分の問題として語られる社会的格差の問題を、「人生を思うように楽しめるか否か」という実体的自由の問題として再編成できないか。そんな思考実験を、資本主義の最前線で活躍する田中君にぶつけてみたいと思います。



鈴木 直文 (42期)

一橋大学大学院社会学研究科総合社会科学専攻・教授(スポーツ社会学)、

NPO法人ダイバーシティサッカー協会・代表理事、

2022年ラクロス男子U21日本代表ヘッドコーチ、

2023年ラクロス男子日本代表ヘッドコーチ、2024年ボックスラクロス男女日本代表ヘッドコーチ

研究テーマは、スポーツと社会的排除/包摶、開発と平和のためのスポーツ、メガ・スポーツイベントと都市開発、など。スポーツが人間の実体的自由の拡大にどのように寄与し、したがって「仲間はずれを生み出さない社会」の実現にどう活かすことができるのかを、ダイバーシティサッカーとラクロスの実践を通じて探究中。